

# 岐阜県支部だより

第5号 平成22年9月4日

- 1 — ◎巻頭言
- 2 — ◎支部研究会報告
- 3 — ◎教育相談Q&A
- 4 — ◎全国大会に参加して
- 5 — ◎事務局より



## 巻頭言

## 学校カウンセラーにこそできること

日本学校教育相談学会岐阜県支部理事長

下野 正代

今年度より、岐阜支部理事長という大役をお受けすることになりました。本支部は、来年度20周年行事を予定しており、また、本部より全国大会の開催を期待されていることもあり、責任の重さを痛感しております。もとより微力ではありますが、前理事長の小森先生はじめ諸先輩方のご指導ご助言をいただくと共に、学会員皆様のお力添えをいただきながら大役を務めさせていただきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

日本学校教育相談学会の会長 中野武房先生は、本年度発行された『日本学校教育相談学会 20年誌』の中で、本学会の設立の過程や意義について次のように述べておられます。

平成2年2月、山梨県において設立総会・第1回研究大会が開催され、それまで、国立教育研究所（現・国立教育政策研究所）主催事業として都道府県教育研究所連盟傘下のもと、「生徒指導・教育相談に関する研究」を共にされていた55名の仲間が集い、恒久的な研究・研修・情報交換の場を設けたいとの願いで始められたとのこと。現在の会員数は、3000名を超え、学校教育相談に関する研究・研修・学会誌発行をする唯一の日本学術研究団体認定の学会として、日本の学校教育相談活動の先導的役割を果たしてきています。

岐阜支部は、平成3年11月2日岐南町中央公民館で設立総会が開催され、今年で20年目を迎えます。岐阜にも学校教育相談学会ができると聞いたときの驚きと喜びを今でもよく覚えています。地元で志を同じくするもの同士が校種を超え、共

に学びあい鍛えられる場ができたことが心強くありました。事例を提供する度に新たな気づきがあり、また、普段お話を聞くことのできない著名な講師の方々の講演やお人柄からも多くのことを学ぶことができました。本支部も更に多くの方々が学会に入会されるよう魅力ある研修の場を提供していきたいと思っております。

この8月3,4,5日と鎌倉で全国大会が開催されました。参加した支部代表者会では、岐阜県の計画的な研修に賞賛の言葉をいただくことができました。また、『月刊 学校教育相談』でよくお名前を拝見する方々と直接お話ができたことや、学会創立時に現役の教師として活躍されていた方々が、退職後、学校カウンセラーの資格を生かしてスクールカウンセラーとして活躍をされていることを知りました。そして、「退職後も、児童生徒や保護者の方々、そして学校と関わっていけるのは生き甲斐でもある」と話されたのが印象的でした。本支部でも退職をされた学校カウンセラー有資格者の方々が、地域の相談機関で活躍されていますが、学校現場のことがよく分かっているからこそできる支援が多くあると思います。そういった意味でも、多くの先生方が学校カウンセラーの資格を取得されることを願います。不登校で苦しんでいる子ども達や家族の方々への支援はもちろんのこと、不登校を生みださない学校経営や学級経営は、教員経験があり学校教育相談に携わってきた私たちだからこそできる支援だからです。

## ◇支部研究会報告◇

### 定期総会（第20回総会）・第1回研究会報告

開催日：平成22年6月19日（土）

会場：岐阜女子大学（岐阜県岐阜市）

#### 1. 定期総会

今年度の岐阜県支部定期総会は、6月19日（土）に岐阜女子大学で行われました。総会では、支部役員、21年度活動報告、22年度活動計画、予算案などが審議されました。規約については一部改正案が提出され、承認されました。（総会資料につきましては、支部会員全員に送付いたしました。届いて見えない会員の方がみえましたら事務局までご連絡下さい。）

#### 2. 記念講演

### 『教育相談態勢の充実 ～連携を意識して～』

岐阜大学教育学部准教授

橋本 治 先生

記念講演では、橋本治先生に教育相談態勢の充実という題でご講演をしていただきました。橋本先生は、大学での仕事の他に、カウンセラーや少年鑑別所指導講師など多方面でご活躍されています。

近年の課題である、いじめ・不登校・発達障害・小1プロブレム・中1ギャップなど様々な問題に対して、教育相談の現状から、どのような態勢で臨む必要があるのかを学ぶことができました。また「教育は長いスパンで見えていく」という考え方に基づいて、具体的な「態勢」と「連携」についての方策を学ぶことができました。

（文責：小笠原淳）



### 第2回研修会報告

開催日：平成22年8月20日（金）

会場：岐阜聖徳学園大学

夏の研修会は、8月20日（金）に、岐阜聖徳学園大学で行われました。研修会には、学校の教員、相談機関の相談員、大学関係者など、100名以上の参加がありました。

### 学校による不登校対応 ～「不登校対応チャート」による指導～ FR教育臨床研究所

花輪 敏男先生

今年度は、前山形県立山形ろう学校校長でFR教育臨床研究所の花輪敏男先生に「学校による不登校対応」というテーマで講話をいただきました。

講話の中で「昨今、それぞれの地域政策の中で不登校の支援施設（フリースペース、ボランティアによる



キャンプ活動など）が増えてきている。しかしながら、それらの施設が充実すればするほど、学校側との関わりが薄くなるという傾向も出てきている。不登校支援はあくまでも学校復帰を目指すこと。だからといって首に縄をつけて学校へ連れてくるという発想ではなく、子どもが自分の頭で判断し自分の足で歩み出す姿を最終的な目標とし、教師がしっかり取り組む事が大切。」「子どもの欠席が続いている状態は『ガス欠』の状態、再登校の準備を始めるまでには①その子なりのガソリンが溜まる事 ②道路が学校まで繋がっている

（学校との関係が良好になる）事がクリアされてから。」とお話いただきました。この他、「ガソリン」を入れるための取り組みやトレーニングについて①家族による対応の基本姿勢 ②母親トレーニング ③母親ノート法の技法を具体的に紹介していただきました。

参加者からは、「長時間の研修であったが、時間があっという間に過ぎた。」「保護者や本人への具体的なアプローチ（方法）が参考になった。」「不登校チャートを広めることで、多くの子どもたちや保護者、先生方が明るく前向きな気持ちになれるといいと感じた。」「自閉症傾向がある児童への対応がよくわかった。」などの感想が聞かれました。

（文責：広報委員 佐々木 文枝）

## ◇教育相談Q&A◇

Q：「ピア・サポート」を教育相談活動の中に取り入れたいのですが、どのような方法がありますか？

A：ピアは仲間、サポートは支援の意味で、子ども同士が交流し、社会性の発達を支援するプログラムとされています。日本でも10年程前から実践する学校が増え、全国的に広がっています。

ピア・サポート活動は、大人や教師には相談しづらくても、友だちや先輩になら相談できたり、耳の痛い内容であっても素直に聞けたりするという思春期の子どもたちの心理をうまく活用した実践です。小学校で6年生が1年生の給食のお世話に行ったり、集団登下校や、中学校の部活動・生徒会活動等、子どもの中のリーダーが下級生などを指導したりする関わりは、ピア・サポート活動とすることができます。大切な事は、それらの活動に意味と目的を持たせ、関わる対象の相手が心地よくなる関わり方や話し方、支援の方法を考えさせることです。ピア・サポート活動はサポートする側の子どもたちの成長が見られ、学校生活の多くの場面に良い影響が広がると考えられます。

私は、中学校に勤務していますので、生徒同士の仲間関係の難しさに時々驚くことがあります。それは、仲間との距離をうまくとれず、滅私的に振る舞う姿や、逆に孤独に耐える姿です。個々への対応はなかなか難しいのですが、学校全体が子どもたちの関わりが多くなる活動を取り入れることで、多くの生徒を渦に巻き込むことができ、所属感を持たせることができると考えます。

現任教では、生徒会活動で、仲間と関わる活動を毎月取り入れています。既にある活動を利用し、仲間のための活動を仕組んでいます。例えば、給食部会でエプロンチェックをし、その場でボタン付けをしたり、生徒会の挨拶運動でボランティアを募集して、多くの生徒が登校する生徒に「おはよう、〇〇さん」と声をかけたり、小学校に出向き入学への不安を調査し、一日入学で不安を取り除くビデオを流したりする等の活動を行っています。常に仲間を意識し、仲間を気遣うことで、生徒たちが学校を身近に、また楽しく感じることができると考えます。

岐阜市立島中学校 養護教諭 坂田祐子

Q：学校体制の中で相談員としてどのように活動したらよいのでしょうか？

A：本市は小学校8校、中学校4校、全ての学校に教育相談員が配置されています。

相談員の役割は主に、不登校生徒の対応です。電話での連絡、家庭訪問、保護者面談などを行ない、該当児童生徒が学校へ来られそうな場合には、相談員とともに登校することもあります。

家庭訪問した場合は、児童生徒の興味のあることを共に行なったり、話し相手になったりし、状況に応じて学校の情報や行事の予定を伝えたりする場合があります。また、相談室の対応においては、朝の登校の受け入れ、出欠席の確認などを行い個々の児童生徒に応じたプログラムに沿って生活を援助しています。当該児童生徒の興味関心、リソースをもとに、教室復帰に向けて段階的相談支援を行ないます。この時個々のプログラムは、相談員が主に作成し、校内教育相談員会やケース会等で検討し、改善や評価をしています。

学校によっては、不登校生徒のいない場合があります。そのような場合は、相談室等で相談者が来室するのを待つのではなく、積極的に校内を回ったり、休み時間に児童生徒と遊んだり、授業における学習支援的な役割を担うこともあります。

ケース会議等に参加し、資料の提供や情報を提供しますが、これら相談や活動の記録は、学校の教育相談担当、生徒指導主事、管理職の決裁を受け、毎月相談教育総括指導員に提出（相談記録内容は相談件数、事実、考え、相談支援の見通し、学校の動きを記載するようになっている）するようにしています。

相談員の研修については、本市の場合、月一回定期的に、外部講師を招いたり、県の実践教育相談研修会に参加したり、相談員同士での実践交流を行い、資質の向上を図っています。昨年度は、情緒障害児施設の見学も行いました。

相談員の役割や期待されるものは、学校によって違うと思いますが、組織の一員として大切な役割を担えるよう努力しています。

本巣市教育センター

教育相談総括指導員 野村民子

**日本学校教育相談学会**  
**22回研究大会（神奈川大会）報告**  
開催日：平成22年8月3日（火）～5日（木）  
於：（神奈川県・鎌倉市）

第22回研究大会が8月3日（火）～5日（木）に開催されました。今回の大会テーマは「子どもの『こころ』を大切に、共に育ち合う学校教育相談実践活動の創造」です。

大会では、「夏季ワークショップ」、「記念講演」、「特別講演」、「研究・実践事例発表」、「シンポジウム」、「ポスター発表」などが行われました。

### 1. 夏季ワークショップ

〔コース及び講師〕

A:「生きて在ることの意味と身体を感じることーキューブラーロスの死生学と臨床動作法入門」

講師：石川勇一・相模女子大学教授

B:「子どもの非行を考えるー非行の歴史と子どもたちの実存を中心に」

講師：加藤誠之・高知大学准教授

C:「学校問題と法ー教育者と法律家は協働できるか」

講師：小池拓也・弁護士（湘南合同法律事務所）

D:「学校で活かすカウンセリングの基礎・基本」

講師：三國牧子・法政大学非常勤講師

E:「いじめの予防と対応」

講師：松尾直博・東京学芸大学准教授

F:「保護者への支援とカウンセリング」

講師：中原美恵・東洋大学教授

G:「教育相談を活かした学級づくり」

講師：赤坂真二・上越教育大学准教授

H:「学校で行うコンサルテーションの実際」

講師：塚田展子・武蔵野心理教育研究所所長

### 2. 記念講演・特別講演

記念講演「人間の脳とこころ」

講師：養老孟司（東京大学名誉教授）

特別講演「禅と心と建長寺」

講師：高井正俊（建長寺総長）

### 3. シンポジウム

**「改めて学校教育相談を考えるー学校教育相談実践活動が児童生徒にとって意味あるものにするには」**

基調講演・コーディネーター

栗原慎二（広島大学大学院教授）

シンポジスト

伊藤亜矢子（お茶の水女子大学准教授）

古川雅文（兵庫教育大学教授）

中林浩子（新潟市総合教育センター指導主事）

## ◇益々の活動の発展を願って◇

2010年度の夏の研修会も100名を超える参加者を迎えて、盛況のうちに終えることができました。不登校の児童生徒に対応する内容がテーマでしたが、多くのニーズがあることを改めて感じた次第です。残り3回の研修会もさらに充実させていくことができたらと思っています。

さて、今年度より支部役員や事務局役割を変更・拡大して活動を進めています。研修委員会、広報委員会のメンバーを増やして、その方たちが中心になって活動を進めています。従来までは、理事が中心になっていましたが、より会員の方のニーズを取り込みながら、より多くの方で運営していくことを願っての変更です。

来年度には、岐阜県支部の活動は20周年を迎えることとなります。20周年の節目として、記念誌を発行したり記念事業を計画したりしていく予定です。さらには、数年後に、「岐阜で全国大会を！」という声も出ています。こちらも本格的に話が進みそうです。

今年度より、本会認定の学校カウンセラーの方が、岐阜県においてスクールカウンセラーとして活躍しています。このような動きが今後も広がる可能性があります。岐阜県内の学校カウンセラーの活動充実も検討中です。学校カウンセラーの集まりも計画していく予定です。

上記のように、益々活動が広がっていくことを考えていくと、より多くの会員の皆様のご協力を願うことが増えてきそうです。事例研究会の事例提供をはじめ、現在の活動の情報提供、もしくはは研修会や広報などの運営面での協力などです。その際には、どうぞ宜しくお願いします。

多くの会員の皆様による手で、岐阜支部活動がより発展していくことを願っています。

（文責：事務局長 木村 正男）

日本学校教育相談学会岐阜県支部会報第3号  
2010年（平成22年）9月4日発行  
発行：日本学校教育相談学会岐阜県支部  
編集：日本学校教育相談学会岐阜県支部広報委員会  
ホームページ <http://www1.ocn.ne.jp/~sodangif/>  
E-mail: [sodan-gifu@plum.ocn.ne.jp](mailto:sodan-gifu@plum.ocn.ne.jp)